

学協会名： 関西社会学会	会員数：946名
代表者名： 伊藤公雄	コンソーシアム担当者名(E-mailアドレス)： 吉田純 (ksa@socio.kyoto-u.ac.jp)
活動方針： 関西地区における社会学の発展を推進し、かつ会員相互の研究上の連絡を図る	
活動内容： 1. 年次大会 毎年、関西地区またはその周辺地域の大学において、年次大会を開催している。2007年5月には、同志社大学において第58回大会を開催した。 2. 機関誌 2002年より、本会会員による社会学関係の研究発表の媒体として、機関誌『フォーラム現代社会学』を年1回刊行している。 3. 「関西社会学会大会優秀報告賞」 2006年より、各年次大会において若手会員が発表した優れた「一般報告」に対して「関西社会学会大会優秀報告賞」を授与している。本賞は、受賞者をはじめとする若手会員の研究の進展と大会報告の活性化、ひいては社会学のいっそうの発展を目指して設けられたものである。	

学協会名： 関東社会学会	会員数：1010
代表者名： 藤村正之	コンソーシアム担当者名(E-mailアドレス)： 中筋直哉 (nakasuji@s6.dion.ne.jp)
活動方針： 関東地方を中心に、全国のさまざまな領域の社会学者によって構成されており、とくに年齢が若く、研究の発展期にある研究者が互いに研鑽し合い、高め合う場として積極的に活動し、評価されてきた。そのために新しい領域やテーマを学会内に広め、共有することに努めている。	
活動内容： 1. 年1回(6月)の大会開催：自由報告部会(約10部会、50人程度の報告者)、 公募制テーマセッション、テーマ部会(2部会) 参加者約250名 2. 学術誌『年報社会学論集』の年1回刊行：2007年度で20号、査読付論文15篇程度掲載、 隔年で特集企画 3. 大会テーマ部会に向けた研究例会を開催(2,3月)：部会毎に1回 4. 「修論フォーラム」開催：修士課程を修了した会員の希望者の論文の報告と質疑 5. HP(随時更新)、ニュース(年3回)による会員への情報提供 6. 理事会(理事11~12名)の年3回開催。研究委員会(大会企画)、編集委員会(年報編集)	

学協会名： 社会事業史学会	会員数： 253
代表者名： 永岡正己	コンソーシアム担当者名(E-mail アドレス)： 岡田英己子 (emiko@comp.metro-u.ac.jp)
活動方針： 本学会は、社会福祉の歴史研究を通じ、社会福祉の科学的研究を高め、民主主義にもとづいた日本社会福祉の発展に資することを目的とする。	
活動内容： 本学会は 1973 年 5 月に社会事業史研究会として設立され、1998 年 5 月、社会事業史学会に改組され今日に至っている。設立以来、社会福祉の歴史研究の発展とその組織化に取り組んできた。主な活動内容は以下のとおり。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 毎年 1 回全国大会を開催している。</li> <li>2. 毎年 1 回機関誌 (『社会事業史研究』) を発行している。</li> <li>3. 「史資料問題特別委員会」と「社会福祉歴史教育に関する小委員会」等を設置し、社会福祉史研究・教育の重要課題について継続的検討を行っている。</li> <li>4. 「社会事業史文献賞」を設け、研究の奨励を行っている。</li> <li>5. 隣接諸科学との研究交流、社会福祉関係学会との連携を行っている。</li> </ol>	

学協会名： 数理社会学会	会員数： 307
代表者名： 井上 寛	コンソーシアム担当者名(E-mail アドレス)： 野宮大志郎 (d-nomiya@sophia.ac.jp)
活動方針： 数理的ならびに統計的手法を用いてのモデル構築を通して演繹的および帰納的 (計量的) に社会現象を解明し、ひいては規範的な社会理論の構築を目指す。	
活動内容： 研究活動や学会報告にて扱われる主要な題材として、合理的選択理論、ゲーム理論、社会ネットワーク理論などの理論と、その理論の応用として集合体の意思決定、社会階層、政治、家族、宗教など、またシミュレーション分析やデータ分析などの方法の研究などがある。 学会年次大会は毎年春 (三月) と秋 (九月) に行われる。各大会の時期にあわせて学会誌『理論と方法』が発行される。またニュースレターも発行される。 数理社会学会では、米国学会誌 <b>Journal of Mathematical Sociology</b> との論文交換協定、米国社会学会数理セクションとの合同会議、また国際コンファレンスの主催・支援など多岐にわたった国際交流を進めている。また、日本行動計量学会、日本知能ファジィ学会、情報処理学会、日本感性工学会、などの他の国内学協会との連携も盛んに行われている。	

学協会名：地域社会学会	会員数：360名
代表者名：藤田弘夫	コンソーシアム担当者名(E-mailアドレス)： 藤田弘夫 hiroof@jcom.home.ne.jp
活動方針： 地域社会の研究および研究者相互の協力を奨め、その発達普及をはかることを目的とする。	
活動内容： 主要活動分野・領域は、都市・農村など地域社会研究。 年1回の大会（自由報告およびシンポジウム）の開催。 年4回の研究例会の開催。 年6回の「地域社会学会報」の発行。 年1回の年報（地域社会学年報）の発行。 2006年5月に『地域社会学講座』全3巻を刊行。	

学協会名：東北社会学会	会員数：約270名
代表者名：吉原直樹	コンソーシアム担当者名(E-mailアドレス)： 佐久間政広 (sakuma@izcc.tohoku-gakuin.ac.jp)
活動方針： 東北社会学会は、東北地方在住の社会学研究者と社会学に関心を有する者、および本学会の目的に賛同する者を会員とし、会員相互の協力によって、社会学の研究を促進し、その発展・普及を図ることを目的とする。	
活動内容： 東北社会学会は、以下の事業の実施を活動内容とする。 1. 年1回の学会大会の開催 2. 年4～5回の研究例会の開催 3. 機関誌『社会学年報』の編集・発行 4. 学会通信の発行などによる会員相互の連絡 5. 他の学会との連絡および研究成果の交換 6. その他、東北社会学会の目的を達成するために必要な事業	

学協会名： 東北社会学研究会	会員数： 175名
代表者名： 小林一穂	コンソーシアム担当者名(E-mailアドレス)： 永井彰 (nagai@sal.tohoku.ac.jp)
活動方針： 社会学研究の促進をはかる	
活動内容： 機関誌『社会学研究』の刊行 大会の開催（年1回） 研究例会の開催 通信の発行 その他	

学協会名： 日仏社会学会	会員数： 145名（含名誉会員2）
代表者名： 荻野昌弘	コンソーシアム担当者名(E-mailアドレス)： yyama@kwansei.ac.jp
活動方針： 本学会は、日仏会館との密接な連携のもとに、日仏両国の社会学界の発展・交流をはかることを目的とする。	
活動内容：本学会は、つぎの事業をおこなっている。 1. 日仏間の社会学者の交換。 2. 日本社会学のフランスへの紹介、日本におけるフランス社会学研究の実情調査。 3. フランス社会学の研究成果の紹介、翻訳、出版。『日仏社会学年報』の刊行。毎年1冊刊行し、現在まで16号刊行されている。 4. 年次大会、研究会の開催、および3年ごとに日仏交代で日仏コロークを開催。 日仏コロークは、今年度で11回目を数える。 5. フランス政府招待留学生試験に際し、その候補者の推薦。 6. 日仏関連学会連絡協議会に参加。	

学協会名： 日米高齢者保健福祉学会	会員数： 336 名
代表者名： 中島 恒雄	コンソーシアム担当者名(E-mail アドレス)： おいぬま れいち 生沼 礼一 (geronto@ad.tokyo-fukushi.ac.jp) (事務局幹事)
活動方針： より幸福な高齢者の生活を創造するために、日米の研究者のみならず産業界、行政、政界各方面から会員を募り、日本の高齢者保健福祉研究の充実と発展に寄与することを目的としている。	
活動内容： 確実に、そして急速に高齢化が進むいま、日本の高齢者保健福祉問題は従来の概念ではとらえきれなくなってきた。こうした社会的背景の中で高齢者のより幸福な生活を創造するため、高齢者保健福祉施策の早急な整備が必要となっている。 本学会では、アジア各国に比べ早くから高齢化の傾向を示した米国の高齢保健福祉研究を取り入れながら、そのような問題を世界的視野でとらえ対応するため、米国ニューヨークのフォーダム大学社会福祉学大学院の協力を得て、1996（平成 8）年に設立された。 具体的な活動としては、国際人物交流としての会員等の海外研究派遣、外国人科学者を招聘しての研究大会・講演会の実施等を行っている。また定期刊行物として、年 1 回「日米高齢者保健福祉学会誌～JAPANESE & AMERICAN Journal of Gerontology」を発行している。	

学協会名： 日本家族社会学会	会員数： 7 2 1 人（2007.9.7 現在）
代表者名： 牧野 カツコ	コンソーシアム担当者名(E-mail アドレス)： 稲葉 昭英 inapa@tmu.ac.jp
活動方針：社会学を基礎的な <b>discipline</b> として、人口学、心理学、家政学、社会福祉学、女性学等、広く隣接学問分野との交流を図りつつ、日本及び世界の家族研究の発展をめざして活動をおこなうことを目的にしている。	
活動内容： ・学会大会を年 1 回開催し、研究活動委員会企画のシンポジウムやテーマセッション、会員の自由な研究発表の場である自由報告部会等を設けて、研究者間の意見交換や研究交流の場を提供している。 ・機関誌『家族社会学研究』を発刊し（1999 年までは年間 1 号体制、2000 年以降は 2 号体制）、会員に論文発表の場を提供するとともに、日本の家族研究の水準を内外に示し、その向上に寄与している。 ・学会のホームページを開設運営し、学会からのお知らせや会員から寄せられた情報を掲載して、学会内外に多様な情報提供をおこなっている。また、ニュースレター（年間 2 回発行）、メールマガジン（随時発行）を通じて、迅速な情報伝達も可能となっている。 ・98 年以来、理事会組織内に特別委員会・全国家族調査 (NFRJ: National Family Research of Japan) 委員会を設け、家族についての全国調査(NFRJ)を継続的に実施している。この調査データ (NFRJ98、NFRJS01、NFRJ03) は、東京大学社会科学研究所 SSJ データアーカイブに寄託され、一般公開に供している。	

学協会名： 日本解放社会学会	会員数：130人
代表者名： 亘明志	コンソーシアム担当者名(E-mail アドレス)： 中根光敏(nakane@shudo-u.ac.jp)
活動方針： 差別問題の解決・人間解放の達成をめざす解放社会学を研究し、その発達普及を計ることを目的とする。	
活動内容： 1.差別問題に関する社会学的研究 2.学会大会（年一回開催） 3.学会誌『解放社会学研究』（年一冊発行） 4.学会ニュース（年三回） 5.その他共同調査研究、研究会など	

学協会名： 日本社会学会	会員数：約 3,600名
代表者名： 会長 井上 俊	コンソーシアム担当者名(E-mail アドレス)： 布施晶子 町村敬志 (jss@wwwsoc.nii.ac.jp)
活動方針： 社会学の研究・教育を促進しその発展普及を図ることを主要な目的とした上で、国内外の関連学術団体・研究者と広く連携を進め、それらの成果を通じて、日本と世界の学術文化の発展と平和で公正な社会の建設に資することをめざす。	
活動内容： 社会学とその関連分野全般にわたり、研究の発展と普及、教育の充実をめざす。年1回（原則10～11月）学会大会を開催するとともに、各種委員会の活動を通じて社会学研究・教育に関わる諸課題の検討とその解決をめざしている。1950年から『社会学評論』（季刊）、1992年からは欧文機関誌として『I J J S（International Journal of Japanese Sociology）』（年1回）を発行するほか、会員向けにニュースレターを刊行している。1949年に創設された国際社会学会（International Sociological Association）の設立以来のメンバーであり、世界社会学会議への参加、ワークショップの開催などを通じて、国際的な交流と貢献を行うほか、韓国社会学会との交流協定締結（2007年）を手始めに、他のアジア諸国の社会学者との積極的な連携をめざしている。また、日本教育社会学会、日本行動計量学会との連携協力のもと、「社会調査士資格認定機構」を設立し（2003年）、社会調査の教育体制確立と人材育成を進めている。	

学協会名： 日本社会学史学会	会員数： 266名
代表者名： 大野道邦	コンソーシアム担当者名(E-mail アドレス)： 仲川秀樹 (nakagawa@chs.nihon-u.ac.jp)
活動方針： 広く社会学史・社会学理論に関する研究をなすことを目的とし、学術研究大会・年次総会・研究会・機関誌などの発行をおこなう	
活動内容：  機関誌『社会学史研究』（年1回の発行） 年次大会・総会（年1回の開催） 研究例会（研究例会年1回、関西研究例会年2回の開催） 学会ニュースレター（年3回の発行） 学会HP（本学会活動内容の開示）	

学協会名： 日本社会情報学会（JSIS）	会員数： 460
代表者名： 会長 阿部圭一	コンソーシアム担当者名(E-mail アドレス)： 阿部圭一 (k-abe@aitech.ac.jp)
活動方針： 本会は、社会情報学及び社会情報に関する研究を行う研究者、ならびにこれに関連する分野を研究する者の相互の協力を促進し、併せて外国の学会との交流を図り、以て我が国における社会情報学の発展と普及、ならびに学術文化の向上に寄与することを目的とする。	
活動内容： 1. 論文誌『社会情報学研究』を年2回発行している。 2. 日本社会情報学会（JASI）と協力して、年1回合同研究大会を開催している。 3. 全国各地で、合計して年に数回、研究会を開催している。	

学協会名： 日本社会福祉学会	会員数：5330（2007年9月現在）
代表者名： 古川孝順	コンソーシアム担当者名(E-mailアドレス)： 古川孝順（学会事務局：jsssw@jt2.so-net.ne.jp）
活動方針： 本会は、社会福祉に関する研究及び研究者相互の連絡と協力を促進し、兼ねて内外の学会との連絡を図り、社会の福祉に寄与することを目的とする。	
活動内容： 1．毎年1回研究報告会としての全国大会の開催。 2．学会機関誌（『社会福祉学』年4回発行）その他の刊行物の発行。 3．地方部会（7ブロック）を設置し、活動を推進。 4．すぐれた研究業績をあげた者の顕彰および奨励（「日本社会福祉学会学会賞の授与」） 5．内外の諸学会との連絡及び協力（日本社会福祉系学会連合の事務局など） 6．公開講演会等の開催（「政策・理論フォーラム」の開催など） 7．その他本会の目的を達成するために必要な事業。	

学協会名： 日本社会福祉実践理論学	会員数：545名
代表者名： 米本秀仁	コンソーシアム担当者名(E-mailアドレス)： 学会メールアドレス：zissen@hokusei.ac.jp
活動方針： 学会運営の再編および社会福祉実践と研究との連携強化に取り組み、学会活動の促進を図る。	
活動内容： 本学会の今年度の活動方針は、以下のとおりである。 1) 会員の資格緩和化と会員増加に取り組む。 2) 実践領域と実践領域との連携を強化し、現場との共同研究を奨励する。 3) 投稿論文、学会報告の増加に向け取り組む。 4) 現場との共同研究を奨励する。 5) 研究カテゴリーの改編を行う。 6) 学会の社会貢献について検討する。 7) 研究倫理指針を作成する。 8) 学会名称の再検討を行う。	

学協会名： 日本社会分析学会	会員数： 150 名
代表者名： 鈴木 広（会長）	コンソーシアム担当者名(E-mail アドレス)： 三隅一人（事務局長： kmisumi@scs.kyushu-u.ac.jp）
活動方針： 会員の相互協力による共同営為として、社会の現状分析を進め、そのための理論と方法の深化をはかることを目的とします。	
活動内容： 家族生活や地域社会の現実と、マクロな現代社会の構造と変動を結びつける現状分析のために、都市・農村、地域福祉、家族、産業、そして理論と、社会学の多様な分野にまたがる活動を展開しています。もともとは九州大学の社会学研究室を母体とする研究会でしたが、1996年に現在のオープンな学会形態に改組し、徐々に活動の輪を全国に、またアジアに広げています。小規模な学会の足回りの良さを生かして、年2回の研究例会の開催（2007年で通算114回）と、年刊の機関誌『社会分析』（2007年で通巻34号）および年4回のニューズレターの発行を軸に、コミュニケーションは活発です。その他の学会事業として、内外の研究者を招いてのシンポジウムや講演会、社会学テキストの刊行などを不定期に行っています。	

学協会名： 日本女性学会	会員数： 677 名
代表者名： 代表幹事 井上輝子	コンソーシアム担当者名(E-mail アドレス)： 内海崎貴子（Uchimizaki@kgwu.ac.jp）
活動方針： 本学会は、あらゆる形態の性差別をなくし、既成の学問体系を超えた女性学の確立をめざし、そのための研究および情報交換を行うことを目的としている。研究、教育、実践、運動等さまざまな視点からの意見・情報を交換し、参加者による民主的、主体的な運営による女性学研究を志す人の交流の場をめざしている。	
活動内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年1回の大会の開催</li> <li>・ 学会誌『女性学』の発行</li> <li>・ 学会ニュースの発行、希望者へのメールニュース配信</li> <li>・ 自主研究会活動、プロジェクト</li> <li>・ 会員の研究会活動等への助成</li> </ul>	

学協会名：日本難病看護学会	会員数：630名
代表者名： 牛込三和子（群馬パース大学・教授）	コンソーシアム担当者名(E-mail アドレス)：
活動方針： 難病看護を中心とするケア、ケアシステム、福祉の研究を推進し、これにより、国民の健康な生活の確保に貢献する。	
活動内容： 当学会は、昭和53年に発足した難病看護研究会を改組、平成7年に設立され、以来、学術団体として研究活動を続けています。「難病看護を中心とするケア、ケアシステム、福祉」を研究領域とし、学術集会（年1回）の開催、各種特別セミナー開催、支援マニュアル等の作成、学会誌（年3回）の発行、また各機関、学術団体との連携、相互協力を通し、「国民の健康な生活の確保」への貢献を目指しております。	

学協会名：日本保健医療社会学会	会員数：670名
代表者名： 山崎 喜比古	コンソーシアム担当者名(E-mail アドレス)： 野口 裕二(noguchi@u-gakugei.ac.jp)
活動方針： 本学会は、健康と医療に関する社会学的研究の発展に寄与すること、および、社会学、医学、保健学、看護学、社会福祉学などの研究者と実務者の集学的な研究実践の場となることを目標としている。	
活動内容： ①学会機関誌「保健医療社会学論集」の発行（年2回） ②大会の開催（年1回、本年度は第33回大会を新潟医療福祉大学で開催） ③定例研究会の開催（関東地区、関西地区、看護研究部会に分かれて年数回ずつ開催） ④講演会・シンポジウムなどの開催（国外、国内の研究者や実践者を招いて随時開催） ⑤ニューズレターの発行（年4回）	

学協会名： 福祉社会学会	会員数： 395
代表者名： 庄司 洋子	コンソーシアム担当者名(E-mail アドレス)： 田渕六郎 (r-tabuch@sophia.ac.jp)
活動方針： 福祉 (welfare, well-being) や社会政策の社会学に関心を持つ研究者中心の学術団体として、研究活動の促進を図る	
活動内容： 主要活動分野・領域：福祉 (welfare, well-being) および社会政策全般。 大会：毎年原則として 6 月に大会を開催している。 国内外のイベント：2～3 ヶ月に 1 回、全国各地で研究会を開催している。また、大会では実践的な内容の強い特別シンポジウムを企画・実施している。 出版物：機関誌『福祉社会学研究』(年 1 回；現在第 4 号まで発刊) を刊行している。 他学協会との連携等：日本学術会議より協力学術研究団体の指定を受け、今後いっそう他の学術団体との連携につとめていく予定である。	

学協会名：北海道社会学会	会員数：171 人
代表者名： 笹谷 春美 (北海道教育大学札幌校)	コンソーシアム担当者名(E-mail アドレス)： 平沢和司 (hirasawa@cme.hokudai.ac.jp)
活動方針： 「社会学の研究を推進し、その発展普及をはかることを目的とする」(本学会会則第 2 条)。	
活動内容： 活動分野：社会学全般にわたる。 会員：北海道在住者のみならず全国に会員を擁する。 大会：毎年 1 回 (例年 6 月)、北海道内で開催。 国内外のイベント：とくになし。 出版物：機関誌『現代社会学研究』を毎年 1 回 (例年 6 月) 発行。投稿論文は査読付き。最新号は第 20 巻で 2007 年 6 月に刊行。 他学会との連携：2005 年 6 月に西日本社会学会との間で交流協定を締結。	